

2009

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画

(綾の照葉樹林プロジェクト)

平成 21 年度事業報告書



綾の照葉樹林プロジェクト連携会議

九州森林管理局・宮崎県・綾町

(財) 日本自然保護協会・てるはの森の会

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

平成21 年度事業報告書目次

目次	1
短期行動計画	3

報告書（短期行動計画順に掲載）

1.プロジェクト事務局運営事業（てるはの森の会）	5
2.綾森林生態系保護地域保全管理計画の策定（九州森林管理局）	6
3.綾川上流緑の回廊モニタリング調査（九州森林管理局）	7
4.環境教育エリア内の必要な施設整備計画の策定（九州森林管理局）	8
5.保護林等の情報に関する HP の充実（九州森林管理局）	9
6.各種パンフレット等の作成（九州森林管理局）	10
7.基本方針書の策定（九州森林管理局）	11
8.人工林から照葉樹林への復元事業（九州森林管理局）	12
9.人工林から照葉樹林への復元事業（宮崎県）	13
10.持続的林業経営エリアにおける森林整備（九州森林管理局）	14
11.人工林から照葉樹林への保護復元（綾町）	15
12.ボランティア作業の実施（九州森林管理局・てるはの森の会）	16
13.照葉樹林復元の動態・種子供給源調査（九州森林管理局）	18
14.綾の照葉樹林復元に資する森林GISの整備（九州森林管理局）	19
15.データベースサイトの企画及び構築（日本自然保護協会）	20
16.生涯学習講座（綾町）	21
17.照葉樹林環境教育講座（綾町）	22
18.森林環境教育（宮崎県）	23
19.県有林造成事業（宮崎県）	24
20.遊歩道整備ボランティア作業（てるはの森の会）	25
21.自然散策道路の整備（綾町）	26
22.会員情報（てるはの森の会）	27
23.綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査(日本自然保護協会)	28
24.復元見本林の説明板等の設置（九州森林管理局）	29
25.里山里海 SGA レポート(綾の過去50年の生態系サービスの変化とその要因)の出版(日本自然保護協会).....	30

26.ホームページ等の充実（九州森林管理局）	31
27.普及啓発事業（てるはの森の会）	32
28.照葉樹林文化シンポジウム運営補助（綾町）	33
29.第4回照葉樹林研究フォーラム（てるはの森の会）	34
30.事業説明会の開催（九州森林管理局）	35
31.「森林の市」への出展参加（九州森林管理局）	36
32.ガイドボランティア事業・視察（てるはの森の会）	37
33.森林セラピー基地整備事業（綾町）	38
34.ガイドボランティアとの連携体制について（てるはの森の会）	39
35.地域づくりワーキングの設置及び運営（てるはの森の会）	40
36.照葉大吊橋ビジターセンター運営事業（てるはの森の会）	41
37.ふれあいマップづくりとマップを活用した地域活動の実施（上畑地区）及び ふれあい調査の実施（古屋地区）（日本自然保護協会）	42
38.照葉樹林文化館改装計画の立案と改装（てるはの森の会）	43

参考資料(新聞記事)

40.写真集 宮崎日日新聞 2009年4月11日	44
41.屋久島の保護団体視察 宮日 2009年4月26日	45
42.温暖化衰える森林 毎日新聞 2009年5月4日	46
43.綾照葉樹林でシンポ 宮日 2009年5月13日	47
44.綾で照葉樹林サミット 宮日 2009年6月9日	48
45.宮崎市で照葉樹林フォーラム 読売新聞 11月22日	49
46.照葉樹林研究者ら大会 宮日 2009年11月24日	50
47.人工林間伐ボランティア 宮日 2009年11月30日	51
48.ふれあいマップ作り啓発 宮日 2009年12月6日	52
49.宮崎県綾町の照葉樹林 中日新聞 2009年12月7日	53
50.綾で説明会 宮日 2009年12月9日	54
51.綾の照葉樹林 朝日新聞 2009年12月13日	55
52.綾・照葉樹林 宮日 2010年1月5日	56
53.没後10年で記念シンポ 宮日 2010年2月20日	57
54.綾でふれあい体験ツアー 宮日 2010年3月8日	58
55.綾町森林セラピー基地 宮日 2010年3月13日	59
56.綾でシンポ 宮日 2010年3月22日	60
57.セラピー基地オープン 宮日 2010年3月28日	61
58.綾・森林セラピー基地始動 宮日 2010年3月29日	62

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

短期行動計画(20 年度～24 年度)

項目	項目	第Ⅱ期課題	行動計画	実施項目	主担当	報告書記載者	報告書記載事業名	連携先
1	協働の体制づくり	綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	1 協定書を見直し第Ⅱ期行動計画を作成する	① 協定書を延長するとともに必要に応じて内容の見直しを検討	全		H23 年以降実施予定	
			2 森林計画の策定し、照葉樹林の復元、地域づくりを推進する	② 本プロジェクトを規定する森林計画を策定	全		H23 年以降実施予定	
			3 事務局体制を確立し、安定的な事務局業務の運営を行う	① 安定的な財政基盤を確立	全	T	プロジェクト事務局運営事業	全
				② 2 名以上の専従の雇用し、事務局業務運営を行う	全			
			③ 事務局運営のための事務所の整備	全				
2	照葉樹林の保護	保護林の計画的・順応的保全管理を実施	1 保護林の保全管理計画を策定する	① 綾森林生態系保護地域の保全管理計画策定	国・N・J	国	綾森林生態系保護地域保全管理計画の策定	NJ
				② てるは郷土の森の保全管理計画策定	国・町			
				③ 県植物群落参考林の保全管理計画策定	県			
				④ 綾川上流緑の回廊モニタリング調査	国	国	綾川上流緑の回廊モニタリング調査	
			2 保全管理計画に基づき適切な保全管理を行う	① 巡視体制の構築	全			
				② 管理施設（案内板・標識等）の整備	全	国	環境教育エリア内の必要な施設整備計画の策定	
			3 広く保護林等に係る各種情報を発信する	① 保護林等情報に関する HP の充実	全	国	保護林等の情報に関する HP の充実	
				② 各種パンフレットの作成	全	国	各種パンフレット等の作成	
				③ 市民に向けた講演会の実施	全	国	事業説明会の開催	
3	照葉樹林の復元	照葉樹林への効果的・効率的な復元を推進	1 復元手法を確立する	① 復元の基本方針（構想）を策定する	国・NJ			
				② 復元の復元手法の確立（復元手法マニュアルの作成）	国・NJ	国	基本方針書の策定	NJ
			2 復元手法に応じた施策を実施する	① 計画的な間伐の実施（国有林約 500ha、県有林、町有林）	国・県・町	国	人工林から照葉樹林への復元事業	
						県	人工林から照葉樹林への復元事業	
				② 持続的な林業経営を行うエリアにおける施策の実施	国	国	持続的林業経営エリアにおける森林整備	
						町	人工林から照葉樹林への保護復元	NJ
			3 市民のプロジェクトへの参加を推進する	③ 復元見本林の設置	国・NJ			
4	照葉樹林の調査研究	照葉樹林を適切に復元するための調査研究を推進し、復元に反映	1 効果的・効率的な復元のための検討体制を構築する	① 調査研究ワーキンググループの設置、運営	国・NJ	NJ	調査研究ワーキングの実施	国
				② 基本方針に基づき調査・研究体制の整備	全			
				③ 他のワーキンググループ、調査研究機関との連携	全			
			2 調査・研究のための基本方針（構想）を策定し、計画的に調査を実施する	① 調査・研究の基本方針（構想）を策定	全			
				② 基本方針に基づき毎年度計画的な調査の実施	全	国	照葉樹林復元の動態・種子供給源調査	NJ
				③ 復元に必要なデータの収集と解析	国・NJ	国	照葉樹林復元の動態・種子供給源調査	NJ
			3 復元効果を評価する調査研究を推進する	① 間伐後の復元状況を把握するモニタリングポイントの設置（国有林、県有林、町有林）	国・NJ			
				② データの収集、解析、復元方法へのフィードバック方法の確立	国・NJ			
			4 人工林等からの照葉樹林への復元手法等を検討する	① 人工林等から照葉樹林への効果的・効率的な復元手法について検討	国・T・NJ			
				② 間伐木の処理方法等についての検討	国・T・NJ			
			5 調査・研究成果の共有化及びデータベースを構築する	① 調査・研究成果の情報発信	全			
				② GIS を活用した林小班ごとの復元に必要な情報の整備	国・NJ	国	綾の照葉樹林復元に資する森林 GIS の整備	NJ
				③ 調査・研究成果の共有化・データベース化	国・NJ	NJ	データベースサイトの企画及び構築	国・T

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

短期行動計画(20 年度～24 年度)

項目	項目	第Ⅱ期課題	行動計画	実施項目	主担当	報告書記載者	報告書記載事業名	連携先
5	照葉樹林を通しての環境教育	照葉樹林の重要性を学ぶ環境教育の実施	1 環境教育プログラムを策定、実践	① 環境教育を実施するための行動計画を策定	全			
				② 環境教育エリア内の必要な整備計画を策定	全			
				③ 環境教育プログラムを検討し、試行的に実施	国・町・T	町	生涯学習講座	
						町	照葉樹林環境教育講座	T
						県	森林環境教育	
			2 大吊橋周辺の活用方法を検討、ト整備を行うとともに環境教育を実践する	④ 環境教育エリア内の環境整備	国			
				① 大吊り橋周辺の環境教育に関する活用方法の検討	T			
				② 必要なルート整備を実施	県・町	県	県有林造成事業	
						T	遊歩道整備ボランティア作業	県
						町	自然散策道路の整備	
				③ 崩壊した九州自然歩道について新たなルートを検討し、今後の活用方法について提案	県			
6	プロジェクトの情報発信	情報発信及び支援の輪の拡大活動	1 市民や民間企業参画のためのシステムやメニューづくりを行い、プロジェクトを推進する	① 綾プロの支援メニューづくり・企業の支援メニューづくりを検討し、実践	T			
				② サポーターの募集を行い、会員を増やす	全	T	会員情報	
				③ 市民参加型の間伐事業を実施（国有林）	全		ボランティア作業の実施	
				④ 市民参加型の林床調査を実施する（国有林、県有林、町有林）	全	NJ	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査（継続）	T
			2 広く一般にプロジェクトの内容を知ってもらい、会員の拡大を図る	① パンフレット、リーフレットの作成及び配布	全	国	復元見本林の説明板等の設置	
				② ニュースレター、報告書の作成及び配布	全	NJ	里山里海 SGA レポート（綾の過去 50 年の生態系サービスの変化とその要因）の出版	T
				③ HP の作成及び更新	全	国	ホームページ等の充実	
						T	普及啓発事業	全
				④ ファーラム・シンポジウムを実施	町・T	町	照葉樹林文化シンポジウム運営補助	
						T	照葉樹林研究フォーラム運営補助	独立行政法人森林総合研究所
			3 ガイドボランティアを養成し、市民の理解を深め、てるはの森の会の会員増加を図る	⑤ 講演会等の実施	全	国	事業説明会の開催	全
				① ガイドボランティア事業の実施・養成	T	国	「森林の市」への出展参加	全
						T	ガイドボランティア事業・視察	町
			4 森林セラピー基地としての綾町の取り組みを通して、会員増加を図る	② ガイドボランティアがガイドを通して市民に綾プロを理解してもらうためのプログラム作り	T			
				① 森の案内人を通した照葉樹林の新たな活用方法を検討し、プロジェクトへの理解を深めるための森林セラピープログラムを作成	町	町	森林セラピー基地整備事業	
				② ガイドボランティアとの連携体制についての検討	町・T	T	ガイドボランティアとの連携体制	町
7	照葉樹林と共生した地域づくり	自然と共生した地域づくり	1 市民との協働で実施する運営体制を構築し、市民が積極的に綾プロに参画できるようにする	① 地域づくりワーキングの設置及び運営	町・T	T	地域づくりワーキングの設置及び運営	町
				② てるはの森の驛の活用方法を検討し、それに応じて必要な整備	町・T	T	照葉大吊橋ビジターセンター運営事業	町
				③ ふれあい調査の実施	NJ・町・T	NJ	ふれあいマップづくりとマップを活用した地域活動の実施（上畑地区）及びふれあい調査の実施（古屋地区）	町・T
			2 照葉樹林文化館の活用方法を検討し、より広く活用されるようにする	① 活用方法を検討する市民協議会の設置	町・T		21 年実施済み	
				② 照葉樹林文化館の活用計画を策定	町・T	T	照葉樹林文化館改装計画の立案と改装	町
			3 綾町の他の事業との連携のあり方を検討し、実行計画を策定する	① 活用方法を検討する市民協議会の設置	町・T	T	地域づくりワーキングの設置及び運営	町

1-3-②③

事業名	プロジェクト事務局運営事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
		連携先	連携会議
事業概要 (目的)	プロジェクト関係機関との調整、問合せ対応、事業の企画運営などを行なう。 年 2 回開催の連携会議、月 1 回開催の連絡調整会議の連絡調整、資料作成等の準備を行う。		
○連携会議	回数	日時	主な議題
	10	6月8日	平成20年度事業報告
			平成21年度事業計画案
	11	11月30日	平成21年度事業計画進捗状況について
報告:宮崎県綾町の照葉樹林と針葉樹林の溪流 のコバントビケラ			
○連絡調整会議			
	回数	日時	主な議題
	1	4月21日	スケジュール案・報告書について 森林の市について
	2	5月18日	平成20年度報告書・平成21年度計画案について 第9回連携会議について
	3	7月14日	「緑の募金」活動による照葉樹林植樹祭について 綾プロ事業報告会の開催について
	4	8月3日	「緑の募金」活動による照葉樹林植樹祭について 綾の照葉樹林プロジェクトパンフレットについて
	5	9月8日	「国際照葉樹林サミット」について 綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会開催について 次回間伐作業について
	6	10月6日	「国際照葉樹林サミット」について 綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会開催について 第4期短期行動計画づくり
	7	11月10日	綾プロ事業報告会・連携会議の開催について 次回間伐作業について
	8	12月7日	綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会開催について 次回間伐作業・「国際照葉樹林サミット」について
	9	1月14日	「国際照葉樹林サミット」について 次回間伐作業(2/20土)・上畑地区マップ体験ツアー
	10	2月14日	森林の市参加について 「国際照葉樹林サミット」について
	11	3月10日	「国際照葉樹林サミット」について

2-1-①

事業名	綾森林生態系保護地域保全管理計画の策定	実施主体	九州森林管理局
		連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	綾森林生態系保護地域における適切な保全管理に必要な「保全管理計画」について検討を行った。		

綾川上流緑の回廊における森林生態系保全の中心である綾森林生態系保護地域の保全管理計画の策定に必要な以下の調査を実施し、第1回の検討委員会を開催した。

①綾森林生態系保護地域の現況調査
既存文献・モニタリング結果等により綾森林生態系保護地域の自然環境、林分構造、社会環境等の概況調査を実施

②綾森林生態系保護地域の課題に関する調査
綾森林生態系保護地域において保全管理上の課題を抽出

第1回の検討委員会については平成22年2月5日に宮崎市内で開催し、主として対象地域の課題について議論を行った。その中で次回の検討委員会までに必要な調査として以下の内容が挙げられた。なお、巡視体制については次回以降に検討予定。

①地質に関するより詳細な資料収集

②空中写真判読（現況）等による森林状況の把握

③森林利用の履歴データの整理

④動植物に関する現況を把握するための現地調査（生息種リストの作成）



綾森林生態系保護地域 保全管理計画検討委員会の様子

2-1-④

事業名	綾川上流緑の回廊モニタリング調査	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	「綾川上流緑の回廊（エリア3・5）」において森林の状態とそこに生息・生育する野生動植物の実態を把握するため、以下のモニタリング調査を実施した。 1 森林植生調査（6箇所、エリア5） 2 哺乳類・鳥類生息調査（6箇所、エリア5） 3 希少猛禽類モニタリング（プロジェクトエリア内）		

施業実施計画図及び空中写真から林相を判読し、①若齢人工林（スギ単層林）、②成熟した天然林（ツブラジイ・ツクバネガシなどの照葉樹林）、③若齢天然林（ツブラジイ、タブノキなどの照葉樹林）、④老齢の天然林（ツガ・スダジイなどの常緑樹林）、⑤若齢の天然林（サワグルミ・カナクギノキなどの広葉樹林）、⑥成熟した天然林（モミ・ツガ・アカガシなどの常緑樹林）の6箇所にプロットを設置し、森林植生調査並びに哺乳類及び鳥類の生息調査を実施した。哺乳類は自動撮影調査及びフィールドサイン調査を、鳥類はプロットセンサス調査などを実施した。その結果、ホンドテン、ニホンカモシカなど9種の哺乳類とコシジロヤマドリなど28種の鳥類を確認した。希少猛禽類のモニタリング調査では、プロジェクトエリア内に少なくとも12個体、4ペアのクマタカの生息を確認した。



調査風景



ニホンカモシカ（自動撮影調査）



クマタカ（希少猛禽類調査）



クマタカ（希少猛禽類調査）

※ フィールドサイン調査：個体の直接観察や痕跡観察により、生息状況を把握する調査

※ プロットセンサス調査：調査区域内にランダムに観察区画を設定し、一定時間内に観察された種類を記録する調査

2-2-②

事業名	環境教育エリア内の必要な施設整備計画の策定	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾森林生態系保護地域の保全利用地区（バッファゾーン）において、森林環境教育的な利用を適切に推進するための整備計画策定調査を行い、施設整備計画を策定した。		

綾森林生態系保護地域の保全利用地区において以下の調査を行った。

① 森林環境教育資源の把握
② 施設整備計画の策定

環境教育資源として利用に適している川中キャンプ場吊り橋上流側の一帯地域において今後重点的に施設整備を行うことを計画した。

計画の検討に当たっては有識者への聞き取り調査及び有識者を交えての現地検討を実施した。

今後は、施設整備計画により、歩道の整備、説明板の設置、案内板及び樹名板の設置、植生保護・観察施設の整備等を行う予定。



現地検討の様子



修羅道跡の急傾斜地における
丸太による階段作設予定箇所

2-3-①

事業名	保護林等の情報に関する HP の充実	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトに関係する保護林及び緑の回廊等の情報発信のため、従来のホームページ掲載内容を更新し、より見やすく分かりやすい構成に変更した。		
綾の照葉樹林プロジェクト内の保護林及び緑の回廊を含めた、九州森林管理局管内の保護林及び緑の回廊についてホームページの更新を行った 新たなホームページの構成は「森林における生物多様性保全」というカテゴリを新設し、その中に「保護林制度」及び「緑の回廊」のリンクを新設した。 http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/policy/business/index.html 「保護林制度」の中では制度の目的、生物多様性保全への貢献、九州森林管理局管内の保護林設定状況を説明し、さらに個別の保護林情報へのリンクを設定した。 http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/policy/business/keikaku/hogorin.html 「緑の回廊」の中では緑の回廊の概要と管内の緑の回廊設定状況について説明している。 http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/policy/business/keikaku/midori_kairou.html			

2-3-②

事業名	各種パンフレット等の作成	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクト内の「綾川上流緑の回廊」について、趣旨と取組を広く一般に普及するためのパンフレットを作成した。		

綾川上流緑の回廊について説明したパンフレットを作成した。

内容は緑の回廊の趣旨と綾川上流に分布する照葉樹林の特性等について記述し、中学生程度以上を対象に想定して分かりやすい内容とした。

作成したパンフレットは森林管理署等に配置し、綾川上流緑の回廊の普及啓発に努めているほか、各種イベント時に配布予定である。



綾川上流緑の回廊パンフレット

3-1-①

事業名	基本方針書の策定	実施主体	九州森林管理局
		連携先	N A C S - J
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトの「復元エリア」では、人工林から照葉樹林の天然林に復元することにしており、より確かな復元のための施業方法、優先する復元箇所等について検討した。		

綾の照葉樹林プロジェクトにおける照葉樹林復元事業の基本方針の策定について、第2回調査研究ワーキンググループにおいて委員の先生方から意見をj得て検討した。

基本方針は、復元達成に向けた目標計画の設定、実施の評価などを決めるものであり、今回提案の「綾の照葉樹林プロジェクトにおける照葉樹林復元事業の基本方針」については、「施業のガイドライン」とし整理し検討すべきとの意見から、これに沿って検討した。

「施業のガイドライン」策定については、次回、復元箇所の現状を確認して、復元の施業方法、復元の優先箇所の選定について検討し策定することとした。(調査研究ワーキングの実施参照)

照葉樹林復元の基本方針の検討

日 時 平成21年12月4日(日) 9:00～11:00

場 所 宮崎大学農学部木花フィールド

調査研究ワーキンググループ委員 (敬称略、五十音順)

伊藤 哲 (宮崎大学農学部教授)

大澤 雅彦 (日本自然保護協会専務理事)

河野 耕三 (綾町 照葉樹林文化推進専門監)

高木 正博 (宮崎大学農学部准教授)

西脇 亜弥 (宮崎大学農学部教授)

3-2-①

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業	実施主体	九州森林管理局										
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクト復元エリアの国有林において、人工林を照葉樹林に復元するための間伐作業等を実施した。 <table><tr><td>作業の内容</td><td>実 行 面 積</td></tr><tr><td>除 伐</td><td>25.23ha</td></tr><tr><td>間 伐</td><td>18.79ha</td></tr><tr><td>本数調整伐</td><td>32.87ha</td></tr><tr><td>計</td><td>76.89ha</td></tr></table>			作業の内容	実 行 面 積	除 伐	25.23ha	間 伐	18.79ha	本数調整伐	32.87ha	計	76.89ha
作業の内容	実 行 面 積												
除 伐	25.23ha												
間 伐	18.79ha												
本数調整伐	32.87ha												
計	76.89ha												
綾の照葉樹林プロジェクト小エリア毎の復元作業内容 1. エリア2（森林生態系保護地域内の人工林を抜き伐りし照葉樹林へ復元する作業を実施） ・本数調整伐 1.48ha(2045ろ外1)、 2. エリア5（保護林と保護林との間にある復元エリアの人工林を抜き伐りし、かつての照葉樹林へ復元する作業を実施） ・除 伐 18.69ha(2142い2外2) ・本数調整伐 21.52ha(2163い1外7) 3. エリア9（アクセスが良く、環境教育、セラピー的利用を目指すエリアの人工林を抜き伐りし、照葉樹林へ復元する作業を実施） ・除 伐 6.54ha(2052と外1) ・本数調整伐 9.87ha(2052は) ・保育間伐 18.79ha(2053は)													
													
実施状況（2163い4林小班）		実施後（2163い6林小班）											

3-2-①

2-①

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業(継続)	実施主体	宮崎県
事業概要 (目的)	スギ人工林の混交林化への誘導技術に関する研究を継続実施 (試験期間：平成19年度～平成23年度・5ヶ年間)		

スギ人工林の混交林への誘導技術に関する研究概要

宮崎県林業技術センター

○これまでの経緯

諸県県有林24林班内の51年生スギ林内に本数率で0、30、50%の間伐試験地を設け調査を行った。林分の概況は平均樹高は17.3～18.4mと上長成長は劣り、地位はⅢ（平成19年度スギ林分収穫予想表）であった。形状比は82～88と高く、樹冠長比は32.6～34.7と中庸で、極端な樹冠の枯上がりはみられなかった。広葉樹の侵入の程度は比較的多く、また、試験地に隣接する場所に広葉樹が見られた。

また、間伐に伴う土砂移動を調査するため林内に土砂受箱を設置した結果、当初は伐採の影響（攪乱）により土砂の移動は大きい傾向がみられたが、次第に減少した。

○調査の内容

林内に既に定着している広葉樹について継続調査を行った結果、アラカシ、イチイガシ、タブノキ等の照葉樹林を形成する樹種を含め順調な成長が認められた。また、広葉樹の侵入状況を調査するため、土壌中の埋土種子の発芽試験を実施した。間伐に伴う光環境の変化についても調査を行ったが、短期間のため目立った変化は確認できなかった。

○今後の調査予定

①新規（侵入）広葉樹調査、②土砂移動量調査、③光環境調査、④既存広葉樹調査及び美郷町西郷区に設置した試験区との比較も行う。

なお、綾試験区は周囲に広葉樹が残置され、また、試験区内にも萌芽の発生がみられることから、侵入・定着化が見込まれると考えている。



調査区及び定着広葉樹の状況

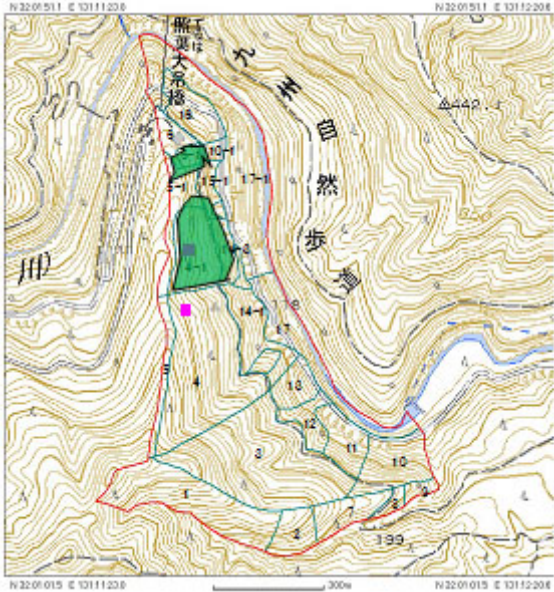


光環境調査（開空度）

3-2-②

事業名	持続的林業経営エリアにおける森林整備	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトの持続的林業経営エリアにおいて、水土保持機能を高めるため保育間伐を実施した。 作業の内容 実 行 面 積 保 育 間 伐 2 2 . 2 1 ha		
綾の照葉樹林プロジェクト持続的林業経営エリアの作業内容			
○ エリア 1 1 (持続的林業経営エリアにおいて、水土保持機能を高めるための保育間伐作業を実施) ・ 保 育 間 伐 2 2 . 2 1 ha (2105か外3)			
			
実施状況 (2 1 0 5 か林小班)		実施状況 (2 1 0 5 よ林小班)	

3-2-①

事業名	人工林から照葉樹林への保護復元	実施主体	綾町
		提携先	日本自然保護協会
事業概要 (目的)	綾プロジェクトエリア内の町有林の復元間伐を実施した。 実施期間 3月9日～3月25日 百ヶ倉町有林 3.21 ha 30% スギ 切り捨て間伐		
 百ヶ倉町有林位置図  実施状況  実施状況			

3-3-①

事業名	ボランティア作業の実施	実施主体	九州森林管理局 てるはの森の会
事業概要 (目的)	ボランティア用見本林(2045に4外)において一般市民による復元作業を2回実施した。		
平成21年11月29日、綾の照葉樹林プロジェクトエリア内において、第6回目となるボランティアによる復元作業を行った。 地元の方々のほか、東京からNPO木の家だいすきの会、関西からピザハット体験ツアー親子の方々など、36名の方々が参加して照葉樹の発生と生育を促すための復元作業（スギの抜き伐り）を行った。 宮崎森林管理署の職員による復元作業の説明、安全作業の指導のあと、森林管理署職員の職員等がインストラクターになり作業を行った。 また、去年ボランティアにより復元作業を行った箇所で、地面から照葉樹の稚樹が顔を出している様子などについても説明を行った。			
			
親子による復元作業		昨年実施箇所で復元状況を説明	
平成22年2月20日、綾の照葉樹林プロジェクトエリア内において、第7回目となるボランティアによる復元作業を行った。 宮崎森林管理署の職員による復元作業の説明、安全作業の指導のあと、森林管理署職員の職員等がインストラクターになり復元作業を行った。また、これまでに切り倒した間伐木をチェーンソーを用いて玉伐りし整理した。 てるはの森の会の会員を中心に18名が参加し4グループに分かれて作業した。			
			
急傾斜地での復元作業		復元作業の様子	

4-1-①

事業名	調査研究ワーキングの実施	実施主体	NACS-J
		連携先	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリア内で実施される復元事業に関して専門家からなる検討体制を構築し、復元方法、調査方法、評価方法を検討し、アドバイスを行う。また、実際のモニタリング調査を実施し、データを収集するとともに解析を行い、実際の復元事業に活用する。検討委員は、大澤雅彦（日本自然保護協会専務理事、現マラヤ大学特任教授）、河野耕三（綾町照葉樹林文化推進専門監）、西脇亜也（宮崎大学教授）、伊藤哲（宮崎大学教授）、高木正博（宮崎大学准教授）、岩本孝俊（宮崎大学教授）の6名となっている。		

8月2日（日）第1回調査研究ワーキンググループ
宮崎大学農学部木花フィールド（農場）会議室 13:00～15:00

綾の照葉樹林プロジェクトにおけるデータベースシステムの構築について検討を行った。昨年度実施された照葉樹林の保護復元に関する情報収集活用設計検討委員会において保護復元にあたって考慮すべき情報について専門家の意見を伺った。それを踏まえて、収集されたデータを登録し、データベースとして一括管理するとともに情報共有を行うためのシステムについてどのような情報をどのような形で保存しておくか復元のための情報として有効に活用できるのかについて意見を伺った。過去の空中写真の解析、過去の森林簿の活用、シカの資料などの意見がでた。

12月4日（金）第2回調査研究ワーキンググループ（照葉樹林復元の基本方針の検討）
宮崎大学農学部木花フィールド（農場）会議室 9:00～11:00

参加した委員は5名（伊藤、大澤、河野、高木、西脇）でした。九州森林管理局では「綾の照葉樹林プロジェクトにおける照葉樹林復元事業の基本方針」という施業実施のガイドラインを作っていますが、調整会議では専門的な検討ができなかったことから、これまで外部の専門家によるチェックが行われてきませんでした。今回は、どのような施業方法が、どこで、どのような方針の下に決められているのか、またその判断基準が妥当なのかについて議論されました。例えば広葉樹が優勢となっている、とは林冠の閉鎖具合、混交具合、下層の有無などから判断する必要があること、つる切りが必要な林分は復元の観点からその必要はないこと、伐倒方法の検討、フロー図の作成、目標林型の設定というように多岐にわたりました。今後、この意見をもとにこのガイドラインの改訂を行っていく予定です。

（基本方針書の策定参照）



12月4日の会議のようす

4-2-②③

事業名	照葉樹林復元の動態・種子供給源調査	実施主体	九州森林管理局
		連携先	N A C S - J
事業概要 (目的)	既設の調査プロットについて植生調査等を実施した。また、種子の供給源となる保護樹帯等や隣接する人工林において林分の構造調査や実生調査を実施した。		

綾の照葉樹林プロジェクトの復元エリアにおける効率的、効果的な照葉樹林への復元に資するため、平成16年度に設置した24の調査プロットについて、2回目となる毎木調査、植生調査等を行った。その結果、複数の調査プロットで、

- ① 照葉樹林構成種の実生等の発生が確認された。
- ② 間伐実施に伴う光環境の改善により、照葉樹林構成種の立木密度の増加が確認された。
- ③ シカの忌避・不嗜好性種の草本類が増加しており、シカの下層植生への影響が懸念される。

また、種子供給源と実生発生の関係を分析するため、種子供給源となる保護樹帯等とこれに隣接する人工林内に新たに調査プロットを7カ所設置し、保護樹帯等で林分構造調査、隣接する人工林で実生調査をそれぞれ実施した。



既設調査プロットの林況(間伐実施)



種子供給源調査カ所の林況

4-2-③

事業名	綾の照葉樹林復元に資する森林GISの整備	実施主体	九州森林管理局
		連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトの復元エリアについて、人工林から照葉樹林への復元作業を優先する箇所を効率的に抽出できるように森林GISを整備した。		

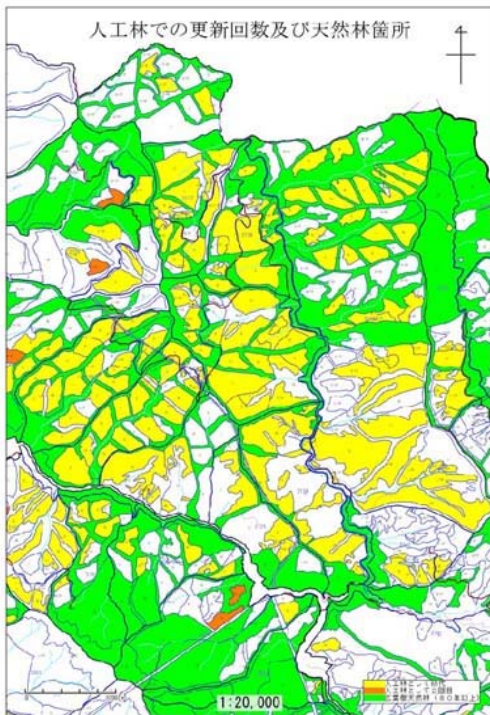
綾の照葉樹林プロジェクトの復元エリアについて、人工林から照葉樹林への復元作業を効果的に進めるため、当該エリア内の各小班の地況、林況に関するデータを森林GISに取り込み、優先的に復元作業を行うべき箇所を効率的に抽出できるように整備した。

これにより

- ①人工林から林齢 80 年生以上の天然林までの距離
- ②人工林の前世代の林相
- ③人工林の天然林からの更新回数
- ④人工林の間伐実施最終年度

などがパソコン上で地図情報として表示できるようになった。

人工林での更新回数及び天然林箇所



4-5-③

事業名	データベースサイトの企画及び構築	実施主体	NACS-J
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリア内で実施された調査研究結果や資料を関係者、市民、広く一般に活用できるようにデータベースを構築する。また、データを閲覧するだけでなく登録することができる情報共有システムを構築する。		

綾の照葉樹林プロジェクトはすでに5年継続されており、報告書やデータが蓄積されている。しかし、一括管理されているデータベースは存在せず各団体ごとに保有されている状態が続いている。そこで少なくとも関係者間で情報共有できるシステムの構築を目指した。

第1回調査研究ワーキングでの議論、照葉樹林への保護・復元に関する情報収集・活用設計調査委託事業報告書（九州森林管理局2008）に基づいて議論された情報共有システムを試行的に構築した。これは、NACS-Jが進めているSISPA（戦略的保全地域情報システム）の取り組みの一つとして実施されたものである。SISPAは自然保護に関する情報をデータベースに登録し、関係者間で情報共有するだけではなく得られた結果を重ね合わせ重要な地域の抽出や保護を必要とする地域の抽出に活用していく予定である。現在SISPAウェブサイトが公開され、解析された結果の一部が閲覧できる。今回はこのデータベース機能を変更し、プロジェクトごとに関係者だけで共有できるグループ化機能を追加し、綾のプロジェクト用のグループを作成した。今後は市民調査で得られた結果や報告書類などを登録し、関係者間で共有できるように運用して行く予定である。



SISPAウェブサイトの画面ここからグループに入ると綾の照葉樹林プロジェクトのグループに入ることができる。

5-1-③

事業名	生涯学習講座		実施主体	綾町
事業概要 (目的)	「自然と調和した豊かで活力に充ちた教育文化都市綾町」創出のため、綾の照葉樹林を中心とした自然について専門家の講義を聴き、町民の保護運動参加への一助とする生涯学習を開設した。			
講座実施状況				
6月から月1回実施 延べ110名参加				
() 講師				
第1回	6月9日(火)	室内	綾の森の概要	町公民館 (河野 耕三)
第2回	7月14日(火)	屋外	大吊橋付近の植物	てるは大吊橋 (河野 耕三)
第3回	8月11日(火)	屋外	森林セラピーコースを歩く	川中 (河野 耕三)
第4回	9月8日(火)	屋外	巨木を見る	川中 (河野 耕三)
第5回	10月13日(火)	屋外	秋の野草や実のなる木を見る	大吊橋付近林道 (河野 耕三)
第6回	11月10日(火)	屋内	バードウォッチング	(猪崎 悦子)
第7回	12月8日(火)	屋外	ネイチャーゲーム	綾神社付近 (古田 栄子)
第8回	1月12日(火)	屋外	旧トロッコ道散策	川中 (河野 耕三)
第9回	2月9日(火)	屋外	式部谷公園を歩く	綾川荘付近 (河野 耕三)
第10回	3月9日(火)	屋外	希少種を観察する。	綾・国富町境付近 (河野 耕三)



希少種を観察する。

5-1-③

事業名	照葉樹林環境教育講座	実施主体	綾町
		提携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	子ども達が貴重な財産である照葉樹林について理解を深め、同時に自然意識の高揚を図る。綾小、中学校で実施する。		

※ 綾小学校 4年生 68名 担任 3名 計71名
講師 フェニックス宮崎ネイチャーゲームの会
平成 21 年 11 月 27 日(木) 会場 綾神社と周辺公園遊歩道
内容
ネイチャーゲーム
① ジャンケン落ち葉集め ②音いくつ ③ディスカバーウォーク
④ サイレントウォーク ⑤森と水の話

※ 綾中学校 1年生 80名
平成 22 年 3 月 4 日(木) 会場 綾中体育館
内容
「綾の森の貴重性」 講師 河野 耕三



綾小学校 (綾神社)



綾中学校(綾中体育館)

5-1-③

事業名	森林環境教育(継続)	実施主体	宮崎県
事業概要 (目的)	原生的な照葉樹林が分布するエリアにおいて、民間を対象とした森林環境教育として「きのこ作り体験学習会」を実施した。		
1 森林環境教育として「きのこ作り体験学習会」を実施			
1) 参加者数 62名(計画60名)			
2) 事業実施期間 2月7日			
3) しいたけ駒打ち説明会(椎茸の育て方や駒打ち作業の説明会)			
 			
4) しいたけ駒打ち作業			
参加者による、ほだ木への穴あけ作業やしいたけ駒打ち作業			
   			

5-2-②

事業名	県有林造成事業(継続)	実施主体	宮崎県
事業概要 (目的)	針・広混交林化を進めるエリアにおいて、森林環境教育や保健休養的利用を促進するため、修景整備(歩道整備)、獣害防除、間伐事業を実施した。		

1 管理道維持管理

1) 路線名 綾南谷線 L=1380m

2) 事業実施期間 6月～8月




25世紀の森(カヤとスギの複層林)の維持管理

2 獣害防除事業

1) 実施面積 3.44ha

2) 事業実施期間 10月～3月



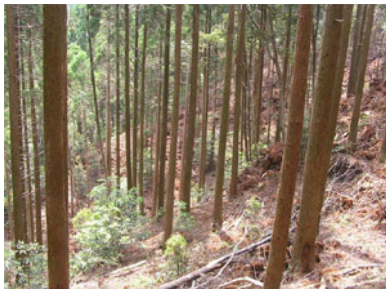

シカ害対策地 全景

カヤ植生状況

3 間伐事業

1) 実施面積 5.57ha

2) 事業実施期間 4月～6月(1月～6月)

間伐作業 完成

間伐作業

5-2-②

事業名	遊歩道整備ボランティア作業(新規)	実施主体	てるはの森の会
		連携先	宮崎県・綾町
事業概要 (目的)	大吊り橋上の遊歩道(諸県県有林・綾町有林)を整備し、新たな散策ルートとして活用する。		

○第2回調査(9月15日)

てるはの森の会員3人と事前調査を行った。



○遊歩道整備作業(11月28日)

東京のNPO法人木の家だいすきの会が主催した「綾体験ツアー」参加者7名、大和証券宮崎支店6名、バクスター宮崎工場1名とてるはの森の会会員総勢20名で、吊橋の北側〔地図参照〕の遊歩道を整備した。遊歩道に生えていた幼樹やシダを伐り、歩道として通れるようにした。危険な崖にはロープを張った。今後、朽ち果てた東屋(町有林内)の撤去が望まれる。



5-2-②

事業名	自然散策道路の整備	実施主体	綾町
事業概要 (目的)	つり橋の周遊コース遊歩道は、台風等により痛んでおり安全に歩行できるよう整備を図る。川中自然公園に森林セラピー案内板を設置する。 事業名 安全・快適自然公園整備事業（県単事業） 工期 平成 22 年 3 月 9 日～平成 22 年 3 月 30 日 遊歩道 50m 擬木柵 55m ロープ柵 19m 工事費 2,000,000 円 看板（森林セラピー基地） 136,500 円 パンフレット作成 500,000 円		



遊歩道



擬木柵



森林セラピー基地案内板



ロープ柵

6-1-②

事業名	会員情報	実施主体	てるはの森の会										
		連携先	全										
事業概要 (目的)	サポーターの募集を行い、会員を増やす												
○会員数：H22/3/31 現在 個人 130 件 (+14) 前年比 家族 28 件 (+3) 法人 25 件 (+0) 団体 14 件 (-3) ○会費収入 811,990円 (1人払込手数料10円差し引きあり) ○寄付金収入 977,899円 <table><tr><td>吊り橋募金</td><td>42,579</td></tr><tr><td>イベント募金</td><td>5,133</td></tr><tr><td>団体寄付(3 団体)</td><td>708,510</td></tr><tr><td>個人寄付(9 名)</td><td>221,677</td></tr><tr><td>計</td><td>977,899</td></tr></table>				吊り橋募金	42,579	イベント募金	5,133	団体寄付(3 団体)	708,510	個人寄付(9 名)	221,677	計	977,899
吊り橋募金	42,579												
イベント募金	5,133												
団体寄付(3 団体)	708,510												
個人寄付(9 名)	221,677												
計	977,899												

6-1-④

事業名	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査(継続)	実施主体	NACS-J
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	人工林から照葉樹林の復元に必要な具体的手法を決定していくために、自然林に隣接する人工林、二次林、自然林において市民参加で林床植生調査を実施し、継続的にモニタリングしていく。見本林においては間伐事業が行われておりその前に調査を実施し、その後の変化をモニタリングする。月別の林床植生の変化をモニタリングし、年間の植生変化を把握する。市民参加で林床調査を実施する目的は、データを復元方法の検討に用いるだけでなく、復元の効果や結果について実感し積極的に綾プロに参加してもらうことにある。		

国有林の見本林においては、11月9日、2月18日に市民参加の林床植生調査を実施した。これは見本林におけるボランティアによる間伐事業の前に林床調査を実施するもので、間伐後5年程度経過した後再度モニタリング調査を実施する予定である。

県有林においては9月7日、10月4日に実施した。県では緊急雇用対策の一環として県有林の整備事業が9月～11月にかけて行われ、広葉樹を残す形で間伐が実施されたことから林床植生調査を実施した。

町有林においては、4月20日、5月19日、7月14日、8月4日、9月8日、11月20日、1月13日、2月6日、2月27日、3月9日に実施した。これは、町有林に設置された4つのプロット（尾根自然林、尾根人工林、谷自然林、谷人工林）において毎月林床植生調査を実施し、年間の林床植生の変化を追跡することを目的としている。現在結果については集計しているところであり、結果が明らかになった段階で公表する予定である。

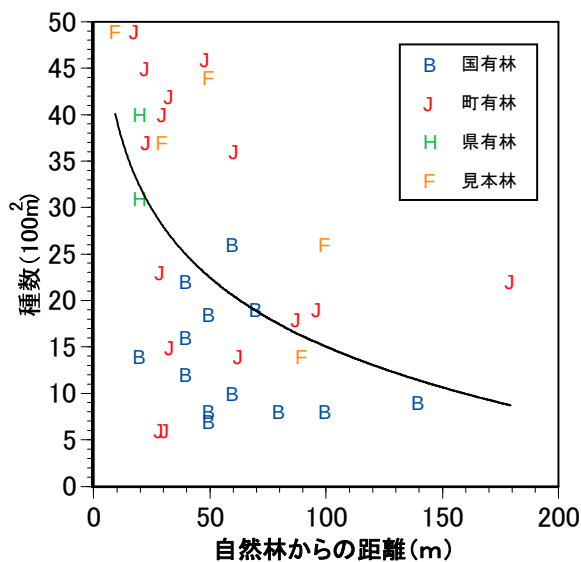


図1 国有林、町有林、県有林における自然林からの距離と種数との関係

国有林と町有林のデータは専門家による調査、県有林と見本林(国有林)は市民参加調査の結果を示す。

6-2-①

事業名	復元見本林の説明板等の設置	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトの復元見本林及びプロジェクトの概要を説明した案内板を設置した。		

復元エリア内に設置している復元見本林（2 1 3 5 い、2 1 3 6 へ林小班）の 2 箇所について、人工林から照葉樹林に復元する森林整備等の概要を照会した説明板を設置した。



復元見本林の説明板（2 1 3 6 へ林小班）

綾の照葉樹林プロジェクトの概要を紹介した説明板を、復元エリアが一望される 2 1 4 2 林班に設置した。

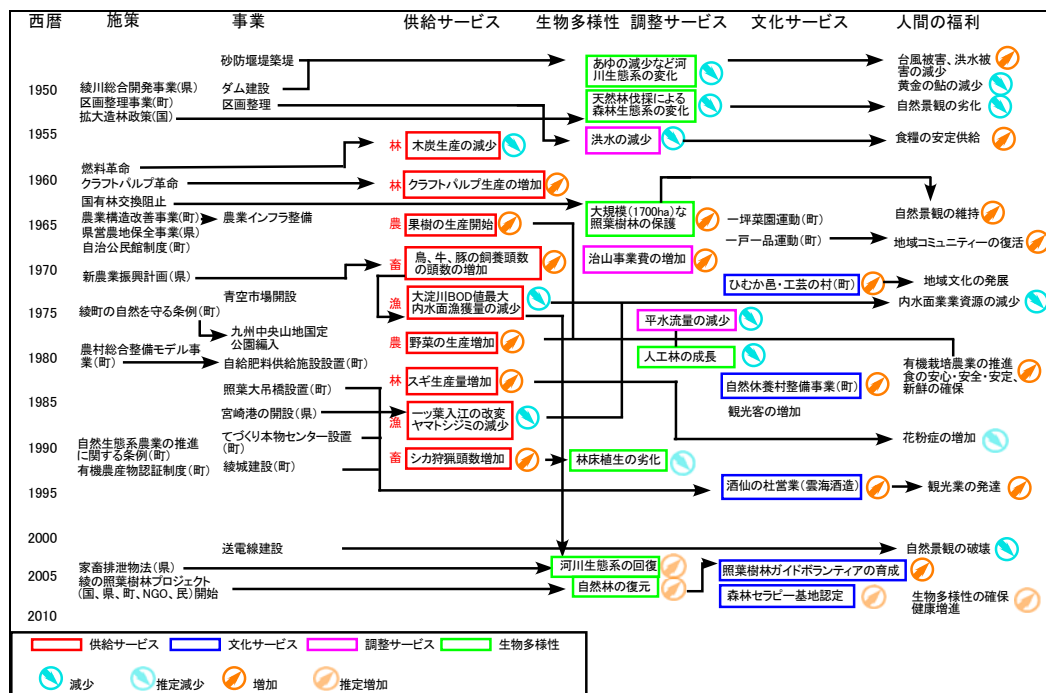


綾の照葉樹林プロジェクト説明板（2 1 4 2 林班）

6-2-②

事業名	里山里海 SGA レポート(綾の過去50年の生態系サービスの変化とその要因)の出版	実施主体	NACS-J
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	綾の過去50年の生態系サービスの変化を明らかにした里山里海サブグローバル評価の取り組みを行いクラスターレポートとして提出し、内外に綾の取り組みをアピールするとともに一般に読むことができる印刷物として出版する。		

国連高等研究所が取り組んでいる里山里海サブグローバル評価（里山里海SGA）に関する全国5つのクラスターのうち西日本クラスターレポートに「宮崎県綾周辺の過去50年間の生態系サービスの変化とその要因」を提出した。実際の西日本クラスターレポートでは、概要、歴史、変化、対応、結論という章構成になっており、綾川の変化、木炭生産量、観光動向、土地利用変化、木材生産量の変化などの記述が採用された。また、対応の章では綾の照葉樹林プロジェクトについて紹介されている。一方、国レベルレポートにおいても第4章の里山・里海の消失の現状と主な要因は何か？の中にBOX項目で「綾周辺の50年間の生態系サービスの変化」という内容が掲載される予定である。国レベルレポートは各クラスターレポートからの報告を受けて作成されるもので日本全体の傾向を把握する内容であるが、綾の事例は、森林の保全や有機栽培農業を目指しながら観光や農産物の販売で経済活動においても成功した地域づくりの例として紹介された。内容は日本語と英語で10月のCBD-COP10の前までに出版される予定である。



綾町周辺の過去50年の生態系サービスの変化とその要因

6-2-③

事業名	ホームページ等の充実	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトで実施した取組内容を、九州森林管理局ホームページ等に掲載し広く情報を発信した。 また、九州森林管理局ホームページの綾の照葉樹林プロジェクトに関するコーナーをリニューアルした。		

九州森林管理局ホームページ「綾の照葉樹林」について

- ① 「綾の照葉樹林」
- ② 「綾の照葉樹林プロジェクトとは」
- ③ 「照葉樹林の復元」
- ④ 「これまでの取組」

の4つに区分して掲載するようにリニューアルするとともに、次の事項について掲載した。

- ① 「森林の市」
- ② 「連携会議開催」(6月、11月)
- ③ 「照葉樹林研究フォーラム」
- ④ 「ボランティアによる照葉樹林復元作業」(11月、2月)
- ⑤ 「事業説明会の開催」
- ⑥ 「平成20年度事業報告書」

また、綾の照葉樹林プロジェクトに関するイベント等の取組については「広報 九州」にも掲載した。

「綾の照葉樹林プロジェクト」ホームページアドレス
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/index.html>



6-2-③

事業名	普及啓発事業	実施主体	てるはの森の会
		連携先	全
事業概要 (目的)	ホームページの作成やニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の広報活動を行なう。 今年度からホームページ上にて報告書を掲載。		

○てるはの森の会のホームページ

<http://www.teruhanomori.com/>



○てるはの森の会事務局ブログ

<http://blog.canpan.info/teruha/>



○2008 綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画報告書

<http://www.teruhanomori.com/hopukokusixyo.pdf>

○綾の照葉樹林ガイドブック改訂版の発行(6月29日)



○ニュースペーパー「照葉樹林だより」の発行
(年4回発行)

- ・第14号 4月20日発行
- ・第15号 7月10日発行
- ・第16号 10月10日発行
- ・第17号 第1回照葉樹林研究フォーラム要旨集(2007年)
- ・第18号 第2回照葉樹林研究フォーラム要旨集(2008年)
- ・第19号 第3回照葉樹林研究フォーラム要旨集(2009年)
- ・第20号 第4回照葉樹林研究フォーラム要旨集(2009年)
- ・第21号 2月15日発行

照葉樹林研究フォーラムは、2007年以來4回開催されてきました。いずれも参加者に好評で、毎回、話題提供者に執筆してもらった要旨集も作成しています。その内容を論文に引用したいという要望があったので、「照葉樹林だより」の一部に組み込むことにしました。表紙上部にある ISSN 番号や号数・ページ数を国立国会図書館へ知らせて文献請求できるようになりました。



照葉樹林だより 21号

6-2-④

事業名	照葉樹林文化シンポジウム運営補助	実施主体	綾町
事業概要 (目的)	実行委員会へ運営補助をする。 日本一の広さの残る綾の照葉樹林、かつてこの森でも行われていた焼畑や、様々の山の生活文化を椎葉、南郷等の山人の人々との交流を通してその実学を学ぶ。 又、山への深い信仰や儀礼作法を知り、謙虚な思いで自然と向き合う生き方を取り戻す生き方を提唱する。飯田辰彦氏の広い視野での民族学の推移を学ぶ。		
5月10日（日）綾北川沿い及びサイクリングターミナル			
「森に触れる」 10:00 サイクリングターミナル周辺の自然 ネイチャーゲーム ふるまい食で交流 12:00 ソバ汁 つみ草天ぷら ターミナル川沿い 照葉樹林シンポジウム 13:30～ サイクリングターミナル 挨拶 綾町長 上野会長 約 120 名の参加 講演 14:00～ 1、飯田 辰彦氏 （ノンフィクション作家） パネルディスカッション 「自然の終焉と生活文化の復権」 山人の方々(椎葉、美郷町その他) 山人の実学に学ぶ コーディネーター 郷田美紀子 2、渡辺 綱覧氏 （宮崎県文化協会会長） 「宮崎の宝を考える 生かす!」			
			
シンポジウム		ふるまい食で交流	

6-2-④

事業名	第4回照葉樹林研究フォーラム	実施主体	てるはの森の会
		連携先	独立行政法人 森林総合研究所
事業概要 (目的)	全3回綾町で行われた「照葉樹林研究フォーラム」を森林総合研究所「綾リサーチサイト」20周年記念をして宮崎市で開催し、照葉樹林の貴重性や保護の重要性を広く県民に広報する。 ・第4回照葉樹林研究フォーラムー森から学ぶものー 2009年11月21日 宮崎市民プラザ 参加者 100人		

○第4回照葉樹林研究フォーラムー森から学ぶものー



発表



総合討論

日時 2009年11月21日(土)13:30～16:30

場所 宮崎市民プラザギャラリー

入場料 無料

主催：独立行政法人 森林総合研究所・てるはの森の会・NPO法人宮崎文化本舗

共催：九州森林管理局 後援：宮崎県・宮崎市

◆ プログラム

◆主催者あいさつ

「てるはの森の会」代表 上野 登

◆綾の照葉樹林復元プロジェクトの概要

宮崎森林管理署長 笹岡 哲也

◆研究発表

- 1 日本の照葉樹林ー宮崎の森を中心にー 山元 進一氏 (名古屋大学)
- 2 照葉樹林における樹林と動物のたような関係 小南 陽亮氏 (静岡大学)
- 3 照葉樹林の葉はいつ落ちる？ 佐藤 保氏 (森林総合研究所)
- 4 現代における照葉樹林の文化的社会的意義 湯元 貴和氏 (総合地球学研究所)

◆総合討論

午前中 10:00～12:00 フォーラムに先立ち「公開シンポジウム 九州の森は今…」が独立行政法人 森林総合研究所主催で行われ、これにも多くの参加があった。

6-2-④

事業名	事業説明会の開催	実施主体	九州森林管理局
		連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトへの理解と住民の参加を促すため、町民向け事業説明会を実施した。		

1 2 月 7 日、綾町高年者研修センターにおいて、綾の照葉樹林プロジェクトの取組状況を綾町民の方々に説明する事業説明会を開催し、約 7 0 名の参加があった。

① 復元のための林床調査・間伐作業
② げんだぼの森づくり
③ 上畑地区のふれあい調査
④ 地域づくりワーキンググループ・都市住民との交流

の 4 事業については、これら取組に参加した町民の方々の感想を交えて説明を行った。





6-2-④

事業名	「森林の市」への出展参加	実施主体	九州森林管理局
		連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	日比谷公園で開催された「森林の市」に出展参加し、綾の照葉樹林プロジェクトのPRや、サポート会員への参加を呼びかけた。		

平成21年5月9・10日に東京都日比谷公園で開催された「緑の感謝祭・森林の市」のイベントに出展・参加した。

両日とも天候に恵まれ、イベント会場には全国各地から70を超える団体が参加する中、「綾の照葉樹林プロジェクト」では、プロジェクトを紹介したDVDの放映、パネル展示、照葉樹クイズ、モックン作りなどを行い、綾プロジェクトの普及やサポート会員の参加を呼びかけた。

照葉樹クイズや木と触れ合うモックン作りコーナーは、子供やお年寄り、家族連れの方などの参加があり、モックン作りでは準備した材料がなくなるほどの好評を得た。



6-3-①

事業名	ガイドボランティア事業・視察	実施主体	てるはの森の会
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	①照葉樹林ガイドボランティア実践活動 ②プロジェクトの視察 ③綾の沢調査の実施協力		



①照葉樹林ガイドボランティア実践活動

綾町照葉樹林の代表的景勝地大吊り橋周辺遊歩道2kmをボランティアガイドの案内で散策する。照葉樹林の多様性を伝え、綾プロジェクトの保護・復元活動の取り組みを広く広報する。3月7日はアサヒビールキャンペーン92名を案内し、照葉樹林と保護活動について説明した。

参加者合計 14回 287名

実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数
4月	なし		8月	2回	37人	12月	1回	14人
5月	なし		9月	2回	17人	1月	なし	
6月	なし		10月	1回	16人	2月	3回	15人
7月	1回	4人	11月	2回	84人	3月	2回	100人

②綾の照葉樹林視察の対応

参加者合計 9回 82名

- 綾プロ概要説明(8/7 金)国土交通省土地利用委員会 3人
- 綾プロ概要説明(8/18 火)モスクワ大学 4人
- 「風景評価の異文化比較～日露風景比較プロジェクト」
- 佐賀県こだまの森をまもる会視察(10/3 土 10/4 日)16人
- 中日新聞取材(10/16 金)1人
- NPO 法人木の家だいすき体験ツアー
(11/27 金～29 日)14人
- ピザハット親子体験ツアー(11/28 土～29 日)22人
- 視察(12/9 水)唐津・東松浦林業協会 16人
- 取材(12/22 火)NHK宮崎放送 3人
- WEDGE取材(2/28 日)上畑体験ツアー3人



視察のようす

6-4-①

事業名	森林セラピー基地整備事業	実施主体	綾町
事業概要 (目的)	日本有数の照葉樹林地帯である綾町は、平成19年3月22日に「森林セラピー基地」としての認定を受けた。そこで照葉樹林を含めた森林地帯をますます有効な地域資源として活用するため、森林・産業・観光・健康増進を組み合わせ、地域振興に資することを目的とする		
① 森林セラピー推進協議会運営 森林セラピー推進協議会を開催し、森林セラピーに従事していただく森の案内人（20名）を養成する。またモニターツアー（6回実施）を継続的に実施し、利用者のニーズに沿う受入体制、メニュー作りを行った。また森林セラピーロードの整備、メニュー開発について協議した。（2回開催） また、森林セラピーを県内外にPRの機会として3月27日・28日の日程で森林セラピー基地グラウンドオープン記念イベントを開催し、県内外から延べ250名の参加があった。 ② 森林セラピー関係機関会議 森林セラピー基地・ロード認定機関で運営している「森林セラピーネットワーク会議」への参加し、実践者育成のための全国の取組や他の基地と情報交換を行った。 ③ 特産品の研究 森林セラピー推進協議会内で特産品の研究開発を行った。 ④ コース等整備 森林セラピーコースの充実化・安全性を高めるためコースの整備を行った。 また、コア施設の充実化を図るため、トイレの改修を行った。			
 森林セラピー幹事会  モニターツアー			

6-4-②

事業名	ガイドボランティアとの連携体制について	実施主体	てるはの森の会
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉樹林ガイドボランティア事業」と「森林セラピーガイド事業」の詳細案内を載せ、情報の整理を行う。		

平成 18 年度から、綾プロジェクトの事務局「てるはの森の会」が綾大吊橋遊歩道で照葉樹林の貴重さ・プロジェクトの普及のため、「照葉樹林ガイドボランティア事業」をスタートし、18 年度～20 年度、毎年 500 人ほどを案内している。21 年度は本格的な森林セラピーガイドのグランドオープンがされた。

利用者である観光客に、ホームページ・チラシの両方に「照葉樹林ガイドボランティア事業」と「森林セラピーガイド事業」の詳細案内（連絡先・利用料金・申込方法等）を載せ、利用者が自ら選択できるように、情報の整理を行う。

町のホームページに、ガイド申し込みのバナーを設け、それぞれのホームページにリンクさせ、2つのガイドの案内を行えるように整備する。ホームページの使えない利用者には、チラシで案内する。

http://www.town.aya.miyazaki.jp/ayatown/tour_guide/therapy/index.html



チラシ

7-1-①、7-3-①

事業名	地域づくりワーキングの設置及び運営	実施主体	てるはの森の会
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域づくりWGは、次に掲げる事項を検討する。 ① 住民参加デザインの検討 ② てるはの森の会会員獲得等に関する企画・運営 ③ 普及・啓発イベント等の企画・運営		

平成20年度は、綾プロジェクト広報のため、ワーキングの委員の声（もっと多くの町民の参加を）を受け、公民館大会（500人参加）に「てるはの森の会」活動の発表の場が与えられ、会員増加に繋がった。また、委員の感想に如実に現れているように、本会活動に対する委員・町民の意識の変化と理解に繋がりをさらに図るため、今年度は、WGでの委員を増員した。昨年から交流のあったNPO法人木の家だいすきの会の紹介で、東京神楽坂粋なまちづくり倶楽部を訪問し、今後の活動の参考とするとともに、外から綾町を見つめるきっかけづくりとなった。

回	日 程	講 座 内 容	参加人数
1	H21.5月14日(木)	今年度の地域づくりWGについて 新委員について WGの今後の進め方	8名
2	H21.6月15日(月)	ふれあい調査現地見学（上畑公民館）	8名
3	H21.7月9日(木)	ふれあい調査現地見学の感想 地域づくりWG新規委員について 今後のWGへの要望	6名
4	H21.9月3日(木)	「綾の照葉樹林プロジェクト」について 石田達也 新委員紹介・今年度の取組についての要望	15名
5	H21.10月8日(木)	「ふれあい調査」について 東京大学大学院 鬼頭 秀一 (財)日本自然保護協会 開発 法子	14名
6	H21.11月5日(木)	ワークショップによる問題点抽出・解決策	12名
7	H21.12月3日(木)	今年の活動について	12名
8	H22.1月14日(木)	講義「照葉樹林文化について」 湯本貴和教授（総合地球環境学研究所）	14名
9	H22.2月3日(水)	東京神楽坂体験ツアーについて	10名
10	H22.3月4日(木)	東京神楽坂体験ツアー報告	14名

○神楽坂体験ツアーの実施（2月12日～13日）

- ・神楽坂粋な街づくり倶楽部
- ・木の家だいすきの会 森と都市の交流研究会
- ・東京おもちゃ美術館見学



7-1-②

事業名	照葉大吊橋ビジターセンター運営事業	実施主体	てるはの森の会・
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」(1F:無料休憩所、照葉樹林に関するパネル等を展示するネイチャーセンター、3F:飲食物を提供する軽食堂)を運営する。		

○3F:飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」

土・日の週 2 日の営業。

照葉樹林文化館市民協働委員会 1 回を「てるは森の驛」で行った。



書籍等の販売



食堂のようす



1 F ネイチャーセンター

7-1-③

事業名	ふれあいマップづくりとマップを活用した地域活動の実施(上畑地区)及び ふれあい調査の実施(古屋地区)	実施主体	日本自然保護協会
		連携先	綾町 てるはの森の会
事業概要 (目的)	綾町の地域の人たちと自然とのふれあい（土地の自然に対する思い、生活での自然とのかかわり、照葉樹林とのかかわり等）を調べることで、地域の自然とくらし・文化・歴史など地域の価値を再発見する。その結果を「ふれあいマップ」に表示したり、冊子にまとめるなど人々の思いや自然とのかかわりを可視化する。これを照葉樹林プロジェクトにおける地域づくりの資料として活用し、人々の思いを大切にしながら、住民参加のもと、照葉樹林の保護・復元を進める。		
上畑地区において、昨年度実施したふれあい調査結果に基づく「ふれあいマップ」づくりを行なった。8月3日の夏休みの小学生の登館日には、マップを使って地域の「水みち探し」を実施し、子供たちが地域の自然とくらしのかかわりを発見する機会を設けた。 2月には綾町内と宮崎市を中心とする周辺地域に呼びかけ、上畑ふれあいツアーを企画。上畑地区公民館を中心にガイドウォークのルートやガイドポイントを決め、地域の産業である有機農業の現場や地区のくらしの日常や文化・歴史について案内したほか、公民館で地産農作物を使った手料理の昼食をとったり、地域の民謡を披露し、照葉樹林と共にある地域づくりについて、参加者と地元住民の交流を図った。定員20名だったが、24名の参加者があり、また参加したいと好評だった。 また、新たに古屋地区でのふれあい調査をスタートさせた。五感によるふれあいアンケートと、3月の春分の日の社日講でふれあい懇談会を兼ねて聞きとり調査を実施した。			
			
登館日の水みち探し（上畑地区）		上畑ふれあいツアー	
			
「綾町上畑 人と自然のふれあいマップ」		ふれあい調査説明会（古屋地区）	

7-2-②

事業名	照葉樹林文化館改装計画の立案と改装 (新規)	実施主体	てるはの森の会
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	昨年、市民協働会議で照葉樹林文化館の活用法と、改装計画を提案したところ、綾町より照葉樹林文化館コーディネート委託を受けるに至った。 計画策定のための市民協働委員会を設置し、改装計画・資料作成を行った。 ①「12/3 ②1/12 ③1/26 ④2/10 ⑤3/1」の全5回実施		
前年度に、照葉樹林文化館活用に関する市民協働会議を産業観光課参加で開催し、改装計画を提言した。その改装計画が綾町予算で認められ、改装が行われることに決まった。会議で計画の細部を話し合い、その計画に基づき改装工事を行い、平成22年4月3日にリニューアルオープンした。尚、宮崎県の「木のある暮らし創出推進事業」から1,000,000円の助成をもらい、宮崎県産材で展示物を製作した。			
○第1回(12/3) 改装計画策定 ○第2回(1/12) 改装計画と役割分担 ○第3回(1/26) 改装計画事業の優先順位を考える ○第4回(2/10) 館の名称、案内板、展示パネルについて ○第5回(3/1) 展示パネル、動物足跡シール、動物表示について			
			
会議の様子		案内板	
			
入口			

参考資料（新聞記事）

09. 4. 11 日 綾

山と人つながり紹介 「森の会」と町が写真集

国内最大規模を誇る綾町の「てるはの森の会」（上野登代表）と同町は、綾の森をはじめとする、森林とともに営まれてきた同町の生活の様子を紹介する写真集「綾の森と暮らす」一千部を共同製作した。関係者は「自然と共生してきた綾町の文化や歴史に興味を持ってほし

い」と話している。写真集は約十八センチ四方で全九十六頁。写真は昭和三十年代が中心で、「森」のコーナーでは、うっそうと茂る木々の様子や森の中を流れる川の様子などが登場。「山のくらし」では、森の中の炭焼きや木材の運び出し、炊事洗濯のほか作業で命を落とした人を弔う供養祭など、山と人の密接なつながりが分かる写真を掲載している。写真を基に、撮影当時の状況を説明するコメントも添えている。

関係者などの希望者はてるはの森の会 ☎0985(35)7288 か綾町役場企画財政課 ☎0985(77)1111。

小 内 内 内 外 整 整 目

写真集 宮崎日日新聞 2009 年 4 月 11 日

崎 日 日 新 聞 2009年(平成21年)4月26日 09.4.26.宮E

綾照葉樹林復元学ぶ

屋久島の保護団体視察

世界自然遺産に登録されている屋久島(鹿児島県)の自然保護に取り組む「屋久島生物多様性保全協議会」(手塚賢至会長)の会員ら八人が二十一日、綾町を訪れ、現地視察などを行った。

同協議会は、屋久島にある人工林を自然林に戻す方法などを模索しており、官民一体で照葉樹林を保護・復元している「綾の照葉樹林プロジェクト」からノウハウを学ぶことにした。

同町の川中自然公園そばにある民間ボランティアによる人工林の間伐地点で、九州森林管理局の岡村和哉計画課長が伐採の方法などを説明。途中で、照葉樹の木々や草花も興味深そうに観察していた。意見交換会では「森林保全への意識をどう高めるか」などの課題について話し合い、同プロジェクト側は「元町長の故郷田貫さんが綾の森の大切さを町民に訴え、長い時間をかけて意識付けしてきた」などと説明した。手塚会長は

「綾の森は力強く、屋久島との取り組みは大いに参考になる。似ていて親近感を感じた。綾った」と話していた。



ボランティアが間伐した人工林を視察する屋久島の自然保護団体メンバーら

屋久島の保護団体視察 宮日 2009 年 4 月 26 日

9 環境 1面 2009年5月4日(月) 5月4日(月)

気候変動をめぐる主な動向

気候変動に関する国際的な動向

気候変動に関する国内動向

気候変動に関する地方自治体の動向

気候変動に関する企業の動向

気候変動に関する市民の動向

気候変動に関する学術的な動向

気候変動に関するメディアの動向

気候変動に関する国際的な動向

気候変動に関する国内動向

気候変動に関する地方自治体の動向

気候変動に関する企業の動向

気候変動に関する市民の動向

気候変動に関する学術的な動向

気候変動に関するメディアの動向

温暖化衰える森林

照葉樹を自然復元

高野・鏡岡 官民一体目標1万株

シカ食害「新たな脅威」



高野・鏡岡 官民一体目標1万株



シカ食害「新たな脅威」



高野・鏡岡 官民一体目標1万株

温暖化衰える森林 毎日新聞 2009 年 5 月 4 日

46

森と人の共生 散策通じ実感

綾照葉樹林でシンポ

綾・照葉樹林文化シンポジウムは十日、綾町サイクリングターミナルであり、町民ら約百人が森と人との共生を考えた。



綾町の綾川荘周辺を散策しながら緑に親しむ参加者

「森に触れる」と題してネイチャーゲーム。鳥のさえずりや水のせせらぎに耳を傾けた。木の根っこや両手で抱えられない太さの木などを探して、ビンゴを埋めていくゲームも楽しんだ。

パネルディスカッションでは、椎葉村や美郷町南郷区など、農業や狩猟を営む「山人」八人が山への思いを語った。パネリストを務めた椎葉村の那須右人さん（左）は「荒れた山にドングリの木を植えている。イノシシやシカが山に戻ってきてくれる。美郷町南郷区の新田章吉さん（右）は「昔は狼の獲物は『山の宝』といっていた。今狼をすれば、人には自然へのありがたみが欠けている」と訴えた。

綾照葉樹林でシンポ 宮日 2009 年 5 月 13 日

09.6.9. 宮日

綾で照葉樹林サミット

官民5団体協力

国内外600人招致へ

来年開催

国内外の照葉樹林保護団体や研究者を集めた国際会議「照葉樹林サミット」が、来年春から夏にかけて綾町で開催されることが8日、分かった。官民5者一体で、国内最大規模を誇る綾町の照葉樹林の保護・復元活動に取り組んでいる「綾の照葉樹林プロジェクト」の構成団体の一つ「てるはの森の会」(上野登代表)が主催し、ほかの4団体も協力する。並行して照葉樹林保護の国際ネットワーク構築も進め、保護活動の輪を世界に広げていく計画だ。関係者によると、照葉樹林をめぐる同様の動きは国内初という。

同日、同町役場であったプロジェクト連携会議で同プロジェクト事務局が明らかにした。

事務局の発表によると、国内では照葉樹林帯に属する鹿児島県の屋久島や大隅半島、長崎県の対馬、外国では近年森林保全への意識が高まっているという韓国、照葉樹林と密接した生活様式を保っているフータンなどへサミットやネットワーク参加を呼び掛ける。すでに国内の保護団体などには動き掛けを始めている。

サミットの日程は白川で延べ600人の参加を見込む。内容は参加団体による活動事例発表や講演会、綾の照葉樹林の見学会など。当面はてるはの森の会が準備を進め、需要が固まり次第、関係団体で実行委を組織する。2005年5月からスタートした同プロジェクトは、九州森林管理局、県、綾町、日本自然保護協会、市民グループ・てるはの森の会が一体となり、綾の森の人工林を自然林に戻すもの。人工林を間伐して光を入れ、自然林を復元する試みが続いている。全国的に先進的な事業で、関係団体の関心を集めている。

こうした流れの中で、保護活動の問題点などを共有するため、同プロジェクトを中心とした連携の輪が必要という声が上がっており、活動推進の起爆剤としてサミットを計画することにした。



官民一体で保護・復元活動が進む綾町の照葉樹林

綾で照葉樹林サミット 宮日 2009 年 6 月 9 日

09.11.22 読売

(第3種郵便物認可)

「綾の森学術的に貴重」

宮崎市で照葉樹林フォーラム



「綾の照葉樹林プロジェクト」の概要を説明する笹岡署長

綾町を中心とした国内最大級の照葉樹林帯「綾の森」から得た研究結果などを発表する「照葉樹林研究フォーラム」が21日、宮崎市橘通西1の市民プラザであった。日本各地の大学教授ら4人が、森林中の生態の多様性や、保全の重要性を訴えた。(甲斐也智)

照葉樹とは、広い葉を持つ温帯常緑広葉樹。葉の表面が日光を受けて光るために照葉樹とも呼ばれ、ブナ科のシイやカシ類らを指す。約1万種といわれる綾の森のうち、原生林のまま残るのは約2000種で、残りは人が植えたスギやヒノキが存在している。

2005年には、綾町や小林市などにまたがっている照葉樹林を国や県、市民団体などが一体となって保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」が発足した。スギなどの人工林を開伐して、林に日光を取り入れ、自然な種の落下によって照葉樹を発生、生育させる。急激な環境の変化を防ぐため、50～100年かけて行われる長期的な計画だ。

フォーラムは、同プロジェクトに参加している市民団体「てるはの森の会」(宮崎市、上野登代表)などが主催し、今回で4回目。テーマは「森から学ぶもの」で、保護団体職員や市民ら約100人が出席した。

宮崎森林管理署の笹岡哲也署長が同プロジェクトの概要を説明。名古屋大農学部(山本進一教授「森林生態学」)は、国内の照葉樹林の分布は、南が沖縄県の「やんばるの森」、北は東北地方まで広がっているが、原生に近い森林は主に九州地方にしか残っていないと紹介した。

九州は地域的に、台風被害やニホンジカによる食害も受けているが、地球温暖化の防止や生物多様性の観点から、広面積の原生林を残すことは極めて重要だと指摘。「学術的にも大変貴重なもので、多くの困難を乗り越え、今後とも大切に残してもらいたい」と話した。

宮崎市で照葉樹林フォーラム 読売新聞 11 月 22 日

09.11.24 宮日 第3版朝刊

宮崎

綾の森は貴重な財産

照葉樹林研究者ら大会 宮崎市で初

国内最大規模を誇る綾町の照葉樹林に関する研究成果を発表する「照葉樹林研究フォーラム」は24日、宮崎市民プラザであった。約1000人が参加。地球温暖化防止や生物多様性保全などの観点から、綾の森が持つ価値などについて理解を深め、森の大切さを再認識した。

名古屋大の山本進一教授（森林生態学）は、綾の森の樹種の豊富さを説明。その上で「照葉樹の原生林は計り知れない価値があり、学術的な意味でも大変貴重」と高く評価した。

静岡大の小南彌亮教授（植物生態学）は、鳥による樹木の種子散布などを例に挙げ「鳥と果実の多様な関係が見られるとは、豊かな自然の状態を保っていることを示している」と指摘。「全国で照葉樹林はわずかしか残っておらず、宮崎の照葉樹林は最後の砦」と断言した。

これまで同フォーラムは同町で実施してきたが、より多くの人たちに聞いてもらおうと宮崎市で初めて開催。開催に当たり、同町の横山文也副町長が「綾の森は掛け替えのない財産であり、計り知れない恩恵を受けている町の宝」と強調。宮崎森林管理署の佐岡哲也署長は、宮民5省で進めている照葉樹林の保護・復元計画の概要を解説し、「良き森を後世に継承していくための事業。多くの人に興味を持ってほしい」と呼び掛けた。



照葉樹林の学術的価値について発表のあったフォーラム

照葉樹林研究者ら大会 宮日 2009 年 11 月 24 日

09.12.6 宮日
日 日 新 聞 2009年(平成21年)12月

照葉樹林守る意識を

日本自然保護協会
ふれあいマップ作り啓発

綾・上畑地区

「ふれあいマップ」を作製した。今後、自然保護の啓発活動などで役立てていく。

綾の森のすぐ近くにある上畑地区を通して、住民の暮らしが森をはじめとする自然とつながっていることを再認識し、森の保全意識を高めてもらう。昨年4月から住民に聞き取り調査を行い、結果をまとめた。

マップはカラーでA3判。イラストでニホンカモシカやクマタカなど綾の森に生きる動物を紹介しているほか、川遊びの場所、カブトムシを捕まえられる公園、細の材料となるシエロの木など、地区の細かな情報が掲載されている。

綾の照葉樹林プロジェクトの事業説明会は7日午後7時から、綾町高齢者研修センターである。ふれあいマップの説明や森林の復元作業の解説などがある。問い合わせは、綾の森の会 ☎0985(35)7288。



上畑地区の情報を満載した人と自然のふれあいマップ

ふれあいマップ作り啓発 宮日 2009 年 12 月 6 日

中日新聞
09-12-7

宮崎県綾町の照葉樹林

国内最大の商業林林（常緑広葉樹林）が
あるのが高尾山町。商業林は樹齢はともな
い山越えを、日本を代表する樹とされな
が、国定公園などの保護制度に阻まれて
いるのは、全体の三分の二にすぎない。樹
木は植物資源が保護地域となっていないの
は、全国が同様だ。（中山誠）



「多様な生物が生息する豊かな森」と話す山下さんは、つり堀から一部が見学できる「宮城野池」で

「お前、何でそんなに怒るの？」「お前、何でそんなに怒るの？」

[illegible]

「この雑誌は、日本では
やべつかなあこやや」
と、読者「十」はふるふる
と震え、口を「う」に
「う」に「う」に「う」に

[illegible]

山下さんに向かって、
「サウイア・ルースの原稿と
いつかは結婚したいサ
ムソウの美を口にくれる
ぞ」は嘘だ、せいぜい口
の中は分りな「ムササ
ビ」なんだよ、サ
ムソウは口を離れず
まづになりたんです
よ」。「なにのさへん
さ、大いさむらさ

[illegible]

தமிழகமே

かつて西日本をばぐつていた朝鮮樹林の多くは伐採された。まともな面積で残る数少ない森を残すため、地元の市民団体「こころは森の会」や日本自然保護協会（東京）が、昨年九月

森林資源国などは100
に達する。『森林資源
年次報告2007』を基
に、世界の森林は毎年
1億5千万ヘクタール減
少している。森林資源
の減少は、森林生態系
の崩壊を招く。

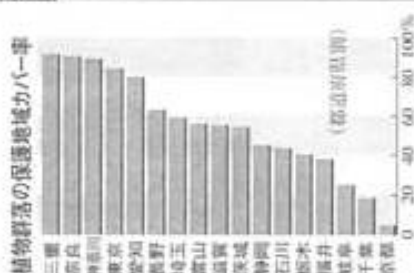
「つぎは森の会」の石田康典事務局長は「森はいわば巨大な宝山。森の恵みを生かす生かすことができ、人間、動物、植物の垣根はなくなり、森林環境は豊かになる。森林環境は豊かになれば、自然の生きたスタイルを思い出すきっかけになるのでは」と話す。

“巨大な里山”復元を

野生動物のすみかとなる森林など、各地の貴重な動植物群四十二百一十一群のうち、約四割は約七十七百九十九万平方メートルの保護地域から外れていることが、日本自然保護協会の調べで分かった。保護地域を過ぎる動物、植物や自然環境を損傷している結果とみられる。保護地域にはまれに「里山」も多く、開発とせられる農地と隣り合わせになっている。里山は自然環境のよみがえり

調査は一九八〇—一九八
一年に亘り、ある特定の町落
にデータブックを基
び、町民の健康（G
—S）の生活の質、データ

全国、4割が地域外



に、保護地域ネットワークを強化
 されることだ。保護地域連
 携は、国境を越えて一定の規
 模を有する自然公園や自然文
 物、自然環境保全地域など

植物群落は保護地域にな
っているカバ一半ば、絶滅
危惧には余念が大きい。種
も高い三層樹は、 $10 \sim 20$ 年

最低の京都府はわずか4.4%にとどまり、保護地域は山間部や海岸の狭小地に集り、私有地は外される傾向にある。里山や離島、川辺もあまり含まれていない。

[illegible]

無防備の甲山

生態系より景観重視

前京十郎越前守(ゴロ)が関われる名古屋市内では、甲山園長をめぐり藩政と行政が対立している。園長は京都研究家の末宮千鶴さんは「甲山はどうか保護していくのか、有法論が確立していない。増築と協議したとすると、彼があるところへは拒絶する」

[illegible]

09.12.9 宮日

世界的価値知って

照葉樹林事業参加訴え

綾町で説明会

綾町の照葉樹林を住民一体となつて保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」の事業説明会は7日夜、同町高年者研修センターであった。参加した住民ら約70人に、事業への参加を呼び掛けた。

開会に先立ち、前田穰町長が「来年5月には国際照葉樹林サミットが開かれ、世界に情報発信するチャンス。町民に照葉樹林の世界的な価値を知ってほしい」とあいさつ。

その後、プロジェクトに携わる団体の代表者らがプロジェクトの事業の内容や実績を説明した。

照葉樹林を復元するための

人工林間伐作業について、てるはの森の会の石田達也事務局長は「マニュアルのない先進的な事業」と強調。同町の河野耕三照葉樹林文化推進専門監はプロジェクトの一つとして

町が進めている里山づくりを紹介し、「子どもには自然に親しむ原体験が必要」と訴えた。

同町上畑地区の「ふれあいマップ」製作に携わり、自然と人の触れ合いを題材に研究を続けている東京大の鬼頭秀一教授（環境倫理学）は「自然を元に戻そう」という取り組みは全国各地にあるが、綾ほど地域に根付いている所はない。天下一品で質の高いプロジェクト」と高く評価した。

プロジェクトは九州森林管理局、県、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会の5者で取り組んでいる。

照葉樹林の復元などについて理解を深めた「綾の照葉樹林プロジェクト」の事業説明会



綾で説明会 宮日 2009 年 12 月 9 日

09.12.13 朝日 第3版 環境・社会

みやぎ紀行

残す自然 守る環境

用な植物が生育するこの場所
で、来年5月には国内初とな
る「国産照葉樹林サミット」
の開催が予定されている。

今月9日、佐賀県の唐津・
東松林業協会と唐津農林事務
所の計14人が視察に訪れてい
た。

綾の照葉樹林

守り育て 伝える場

「この辺りは1960年ごろまで、木材切り出しのトロロコ列車が走っていたんです。生計の場だった森は、保存の対象となったが、一部には文化推進専門監、河野耕三さん(但)の説明に一行は足を止め、歩いてきた細い山道を見

地だった綾の山では、木材をトロロコで運び出していた。生計の場だった森は、保存の対象となったが、一部にはスギやヒノキなど植林された木がまだ残っている。本来の姿を取り戻させるには、間伐作業が欠かせない。その担い手として期待されているのが、市民ボランティアだ。地元の人たちに加え、県

通常よりも高い、人の腰の辺りの位置で切られていることに視察団から質問が出た。河野さんはチェーンソーを使えなくても、のこぎりで切りやすい高さにしたと説明。「ボランティアの皆さんにも参加しやすく達成感の得られる方がいいなあ」と

視察を終えた同事務所林務課普及担当主査の松澤厚也さん(37)は力強い木々の姿に圧倒されたという。「間伐で空いたスペースに外から持ってきた苗を植えるのではなく、まわりの照葉樹が落ちてす様に育てたらという方法がすごくいい。佐賀の森でも参考にしたい」。

綾町役場から綾南川に沿って車で20分ほど進むと、緑の濃い森に出会う。日本最大級の2千坪にわたって広がる綾の照葉樹林だ。

2005年に官民が協力してこの森を保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」

樹齢400年のイチイガシ。周辺には同様の威風をたたえる巨木が立ち並び、ボランティアが間伐した場所を紹介する河野さん(右)「いずれも綾町の川川有林」

河野さんが手を添えて紹介したのが約40分の巨木。樹齢400年というイチイガシだ。大人1人では到底抱えきれないほどの幹回りには約5分、これほど生きた照葉樹は、綾ならではの宝。どうしてしりとした姿は、数百年の歴史を見つめてきた重みをたたえている。

「いろんな人が協力し、少

「この先にあります」と河野さんに導かれて約10分。落ち葉が堆積してできた、まるでふかふかの茶色のじゅうたんの土を進むと、背の高いイチイガシがそこそこここに広がりを、足元にはドングリが散らばっていた。

河野さんは「この森をいろんな人に紹介し、照葉樹林の大切さを守り、育て方を伝えていくために活用したい。森は、守るだけのもではないんです」と話す。

「照る葉の森」の取り組みは、綾だけにとどまらない。風や鳥に運ばれる木々の種子のように世界を駆け、根付かせていきたいと河野さんたちは願っている。(松井真実)



綾・照葉樹林 宮日 2010 年 1 月 5 日

元綾町長・郷田さんのふ



故郷田實さん

ちづくりでよみがえらせた足跡を振り返り、理念の継承について考える。

郷田さんは1966（昭和41）年から90年まで6期にわた

綾町発展の礎を築いた元町長郷田實さんの没後10年記念シンポジウム（同実行委主催）が命日の3月21日、同町公民館文化ホールで開かれる。「夜逃げの町」と呼ばれた綾を先進的なま

没後10年で記念シンポ

り町長を務めた。豊かな自然に根差したまちづくりを提唱し、国内最大規模を誇る照葉樹林の保護に尽力。有機農業の普及にも取り組み、88年には「自然生態系農業の推進に関する条例」を全国で初めて制定した。自治

来月21日 パネル討議や講演映像

公民館制度も導入し、住民が中心となる地域づくりを推し進めた。2000年3月に亡くなった後も県内外からの視察は続き、近年では韓国でもその理念と手腕が高く評価されている。

2000年3月に亡くなった

の足跡を語る。

参加費500円（資料代込み）。問い合わせは同実行委 ☎0985(77)0045。

シンポジウムでは基調講演として、92年に郷田さんが横浜

で行った講演を映像で紹介す

る。パネルディスカッションで

は、綾の森の調査研究に長年携

わる河野耕三さん、国の現代の

名工でガラス工芸作家の黒木国

没後 10 年で記念シンポ 宮日 2010 年 2 月 20 日

照葉樹林眺め散策

綾でふれあい体験ツアー 2010.3.8 宮日

照葉樹林や田園風景を眺めながら、上畑地区内を散策する参加者



綾町入野の上畑地区ふれあい体験ツアーは、同地区内でこのほどあった。町内外から約30人が参加。照葉樹林のふもとに広がる同地区の自然を満喫した。

官民一体で綾の照葉樹林を保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」を実施している団体の一つ、日本自然保護協会（東京都）は、昨年同地区の住民と自然のかかわりをまとめた「ふれあいマップ」を作製。このマップを活用し、自然に触れることで照葉樹林を守る機運を高めても

らおと、同プロジェクトの事業として初めて開催した。上畑地区自治公民館をスタートした参加者は、照葉樹林や田園風景を眺めながら楽しく散策。同公民館長の小西俊一さんから地元住民がマップに記されている水神様や城跡などについて説明すると、興味深そうにうなずいていた。

●綾照葉樹林プロジェクト
上畑ふれあい体験ツアー 3月8日
28日 午前9時半、綾町の上畑公民館に集合。町内でも最も照葉樹林に近い上畑地区のガイドウオークのほかに、昼食を兼ねた懇親会などがある。定員20人（先着順）。参加費500円。申し込みはてるはの森の会（☎0985・35・7288）へ。422.2.25

募っています
◇上畑ふれあいツアー参加者 28日午前10時から、綾町入野の上畑地区。官民一体で綾町の照葉樹林を保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」を実施している構成団体の一つ・日本自然保護協会（東京都）が作製した、同地区を対象とした「人と自然のふれあいマップ」を基に、綾の森のふもとに広がる同地区を歩き、自然を満喫する。当日は午前9時半に上畑地区公民館に集合。先着20人。参加費1人500円（保険代、昼食代込み）で当日納入。てるはの森の会 ☎0985（35）7288。5月9日 422.2.25

綾でふれあい体験ツアー 宮日 2010 年 3 月 8 日

照葉樹林で癒やしを

綾町森林セラピー基地 27日グランドオープン

国内最大規模を誇る照葉樹
林を活用した綾町の森林セラ
ーピー基地が27日、グランドオ
ープンする。



森林セラピー基地となる
川中自然公園

2010.3.13

宮日

27日午後1時から綾町公民館文化ホールで開会式典。東京農大の上原敏彦教授が「綾町における森林療法の可能性を考える」と題して基調講演する。パネルディスカッションでは、手芸家や農家らが森林セラピーと地域振興について意見を交わす。午後6時から綾川荘で郷土料理を囲んだ交流会がある（参加費1人3千円）。

28日は川中自然公園の森林セラピーコースで午前、午後の部に分かれて森の癒やしを体験する。昼食は地元食材を使った特製弁当。参加費は1人2500円で、定員は午前、午後ともに30人。午前の

部は9時半、午後の部は正午までに同ホールに集合。セラピーのほか陶芸や染織、駿馬事公苑での乗馬などのオプションメニューも用意している（別途料金が必要）。

申し込みは交流会、森林セラピー体験、オプションメニューいずれも20日締め切り。問い合わせは綾町森林セラピー推進協議会事務局 ☎0985（77）0100。

綾町森林セラピー基地 宮日 2010 年 3 月 13 日

2010.3.22 宮日

自然保護の志後世に

郷田元町長 没後10年 手腕振り返る 綾でシンポ

綾町発展の礎を築いた元町「シウム」語り継がれる結いの町と、同町名無町屋の故郷田「心」は21日、同町公民館文化会館の没後10年記念シンポ「ホール」であった。町内外から約2500人が参加。「夜逃げの町」と呼ばれた綾を年間100万人が訪れる観光地に再生した手腕を振り返り、志を後世へと引き継いでいくことを誓っていた。

同町や地元住民らでつくる同シンポ実行委の主催。1968（昭和41）年から6期にわたり町長を務めた郷田さんは、照葉樹林の保護や有機農業の推進、自然公民館制度の導入など先進的なまちづくりを展開。2000年3月21日に死去後も、綾に学ぶ自治体や団体が絶えないことから、10年の節目に、命日に合わせて開催した。

実行委員長の前田綱町長が「郷田町長はまちづくりの素晴らしい種をまき、苗を植えてくれた。これからもその遺徳をしっかりと受け継いでいきたい」とあいさつ。92年に横浜市で行った郷田さんの生前の講演を上映した。

「まちづくりの近未来を見据えた競争。10年、20年、30年先のトレンドを窺極め、それが世のニーズになれば、綾は日本のトップを走る町になる」と、郷田さんの熱弁に参加者は何度もうなずいていた。

パネルディスカッションでは4人が登壇。綾町照葉樹林は、バネルデイスカッションで

文化推進専断監の河野耕三さん（82）は「昔は自然保護を訴える町長はいなかった。先見性のある人だった。綾に工房を構える、国の現代の名工でガラス工芸作家の黒木国昭さん（84）は「郷田さんの『本物とは自分の良心に問うて恥ずかしくないもの』という言葉が、今も自分の創作の大きな力になっている」とそれぞれ郷田さんの存在の大きさを語った。



郷田さんとの思い出や自身が受けた影響について話すバネルデイスカッション後、綾町・同町公民館文化ホール

綾の森で癒やし セラピー基地オープン

2010年3月28日
記念式典

国内最大規模を誇る照葉樹林を活用した綾町の森林セラピー基地のグランドオープン記念式典は27日、町公民館文化ホールであった。県内のセラピー基地は日之影、日南市北郷町に続いて3カ所目で、実際のセラピー体験は28日からスタートする。

約150人が出席した式典では、町森林セラピー推進協議会会長の前田穰町長が「まずは町民に森の素晴らしさを再認識してもらいたい。町外の人にもセラピーを体験してもらい、癒やしをみんなで享受してほしい」とあいさつ。事業の説明や町民ガイド「森の案内人」のメンバー紹介もあった。

東京農大の上原敏准教授が「綾町における森林療法の可能性を考える」と題して基調講演。「森林を必要としている人たちはたくさんいる。公民館や企業、子どもの教育活動との連携を進め、綾の歴史や自然条件を生かして多様な受け皿をつくる必要がある」と強調した。

同町は2007年3月に国土緑化推進機構から同基地の認定を受けた。セラピーのコースは同町南俣の川中自然公園で、約3年かけてコース整備や案内ガイド養成の準備を進めてきた。

森林セラピー基地の事業概要説明や基調講演などがあった式典



セラピー基地オープン 宮日 2010 年 3 月 28 日

水と緑 癒やしの空間

記者が走る

2010 3・29 宮日

綾町南側の川中自然公園にオープンした森林セラピー基地で28日、初の体験会があった。貴重な照葉樹林に足を踏み入れたのは、県内外から集まった40人。約2時間のセラピーに同行し、森の生命力を全身で味わった。

(東諸支局長・甲斐亮児)

心身の健康増進に効果があるとされる森林セラピー。県内では日之影、日南市北郷町に次いで3カ所目の基地となる。国内最大規模を誇る照葉樹林の世界自然遺産登録を目指す綾町は、森林活用の可能性を高めようと3年前から準備を進めてきた。

綾・森林セラピー基地始動

全身に生命力味わう

黒木政則さん55と目黒哲子さん40が同行してくれた。午前10時半。参加者は5、6人ずつに分かれて出発。あいにくの雨だったが、雨音や川のせせらぎ、鳥の声を心で受け止める。これだけで心が落ち着くようだ。雲のようにたなびく水蒸気が水

雨にぬれる緑を眺めながら進む。小川を渡ったり、岩を乗り越えたりと、変化に富む道のりも楽しい。木々には若葉がちらほら。綾の森は近く新緑に包まれる。途中、高さ30センチのイチイガシの太木に突き当たった。幹に触れ、樹齢約500年という時間を感じる。

出発から1時間半。森を抜け綾南川に差し掛かると、青空がのぞいていた。きらきら光る水面(みなも)を眺めながら休憩。近くの道端から私たちに与えてくれる癒やしの水は「ここの森があれはこそ」。黒木さんの言葉に、参加者は深くうなずいた。

参加した熊本県熊本市、内科医佐々木彰子さん(28)は「仕事が無駄にたたく、ゆったり過ごす時間がないのでとても良かった。自然そのままだが残されているのがいい」とすっかりリフレッシュした様子だった。

綾の人々が大切に守ってきた照葉樹林が、現代を生きる私たちに与えてくれる癒やしの力。「この森があればこそ」の森林セラピー。参加者や関係者の言葉が胸に響いた。



一時の晴れ間に、葉が光を透して輝く照葉樹林を散策する参加者。小の午後、綾町

綾・森林セラピー基地始動 宮日 2010 年 3 月 29 日



発 行：平成 22 年 7 月

発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 連携会議

編 集：てるはの森の会

お問い合わせ先：

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島 2 丁目 9 - 6 みやざき NPO ハウス 403 号室

TEL:0985-35-7288 FAX:0985-35-7289 電子メール:teruha@miyazaki-catv.ne.jp

ホームページ: <http://teruhanomori.com>